

マレーシア日本国際工科院(MJIIT)

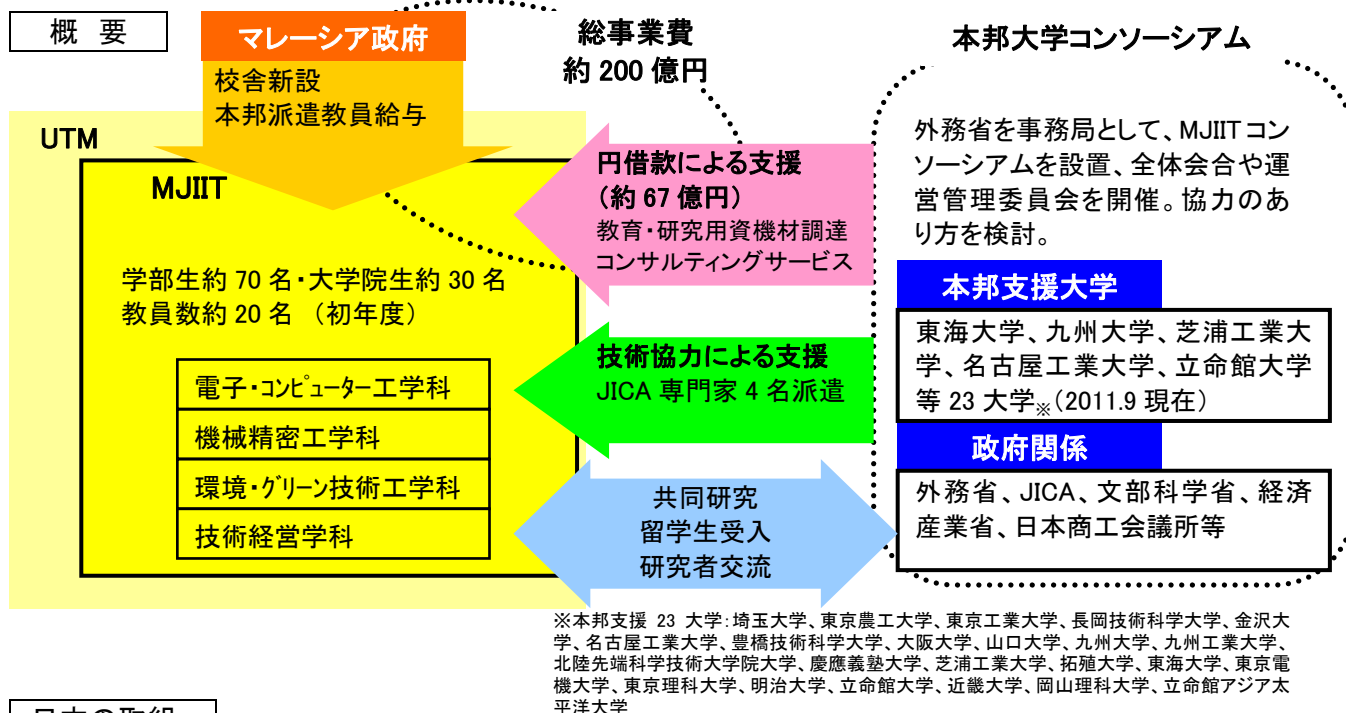
(Malaysia-Japan International Institute of Technology)

経緯

マハティール首相(当時)の提唱により1982年から開始された「東方政策」の集大成として、マレーシアに日本型の工学系教育を行う大学を設立する構想から出発。2001年にマレーシア政府から日本政府への国際工科大学設置の提案を受け、日・マレーシア首脳会談で構想の推進で一致。マレーシアにて既存の大学から独立した大学を設立すべく検討が進められてきたが、日・マレーシア双方からの協力の在り方や実施体制について結論がでず、議論が続けられた。その後、マレーシア工科大学(UTM)にマレーシア日本国際工科院(MJIIT)を設立するアイデアが浮上、2009年10月及び2010年4月の首脳会談を経て、5月にMJIIT設立がマレーシア政府により閣議決定され、7月に円借款要請が提出された上で9月に円借款要請の詳細内容が提出された。

UTMの下であるが独立性の高い、大学院に重点を置いた学術機関(工科院)として設置。長期的にはASEANを含めた国際的な工学教育のハブ化、日・マレーシア産業界も関与する産官学民プロジェクトへの育成も視野に入れる。

2011年9月12日に初年度学部生約70名、大学院生約30名を受け入れ、開校した。



日本の取組

日本側の取組としては、本邦支援23大学と外務省、JICA等でMJIITコンソーシアムを形成しており、全体会合や運営管理委員会の他、学科ごとに各種小委員会を組織し、MJIITへの協力のあり方について検討している。MJIITコンソーシアムには、文部科学省、経済産業省、日本商工会議所等も参加。

具体的な支援方法としては、円借款による教育・研究用資機材の調達のほか、技術協力としてJICA専門家4名(長期、短期含む。うち長期専門家1名はMJIIT副院長)を派遣している。またマレーシア側予算により日本人教員をMJIIT教員としてマレーシアに派遣する計画があり、2011年度においては教員3名の派遣が決定、2012年度には全体で16名に増員することが予定されている。

今後、日本側・マレーシア側の関係者が一堂に会する会合の場を設け、MJIITの運営方針や方策について協議していく。